

よみがえれ！
有明訴訟弁護団
(後藤富和)発行
092-512-1636
090-9602-0700

諫早干拓検討委、12日に現地視察へ

干拓地と海上も

【佐賀・4月6日】国営諫早湾干拓事業潮受け堤防開門調査の是非を協議する政府・与党の検討委員会(座長・郡司彰農水副大臣)は6日、国会内で会合を開き、12日に現地視察を行うことを正式に決めた。諫早湾の海域を海上視察するほか、潮受け堤防や干拓地、背後地にある旧堤防などを視察する。11日には長崎県諫早市で検討委の会合も開く。

12日は締め切り堤防外の諫早湾を海上視察し、その後、湾内の調整池や干拓地、揚水機場などを視察する。漁業者ら関係者から意見を聴く機会は設けない。現地視察は今後の論議を進める上で不可欠として、前回の検討委で実施することを決めている。

赤松広隆農相の現地視察は14、15日に行う方向で調整しており、佐賀、長崎、福岡、熊本の関係4県の関係者から意見を聴く場も検討している。

ノリ養殖業者ら 諫早干拓開門要望 色落被害

民主・古賀一成議員に

【毎日・3月29日】有明海のノリ養殖業者らでつくる「有明海漁民・市民ネットワーク」(松藤文豪代表、約600人)は28日、民主党の諫早湾干拓事業検討委員会委員を務める古賀一成衆院議員に比例九州に、今季のノリの色落ち被害を報告し、排水門の開門を求める要望書を提出した。

久留米市内の古賀議員の事務所で大牟田、柳川両市のノリ養殖業者ら11人が訪れ、「今季は栄養塩不足でノリの水揚げは例年の7割程度にしかない。有明海再生のため一刻も早い開門の決断、実施をお願いする」などとした要望書を古賀議員に手渡した。

古賀議員は「海で働く現場のみなさんの生の声を聞くように赤松広隆農水大臣に伝える」などと応じた。ノリ養殖業者からは「諫早湾が閉め切られてからは潮の流れがゆるくなっている」「今季は沖合の漁場でも色落ちがひどくお手上げだ」などの意見が寄せられた。

佐賀県議会が 諫早干拓開門可決

【西日本・3月25日】国営諫早湾干拓事業(長崎県)をめぐり、佐賀県議

会は24日の定例会最終本会議で、潮受け堤防排水門の開門調査を早期に実施するよう国に求める意見書案を全会一致で可決した。同県議会が開門調査を求める意見書や決議を可決するのは2001年以降、12回目。

政府・与党は、開門の可否を政治判断する「諫早湾干拓事業検討委員会」を設置。16日には開門を求める古川康佐賀県知事から意見を聴いた。

意見書はこうした国の動きを踏まえ、「佐賀のみならず、長崎からも開門を求める声が上がっている」と指摘。「漁業被害を訴えている」関係者の生活安定のために、早期の開門調査実施を強く要望する」とした。

諫早開門し、
実態調査を急げ

【朝日・3月30日・読者の声】

長崎県諫早市在住 89 男性

長崎県の中村法道知事は就任直後の5日上京して、郡司彰農林水産副大臣と面会した。国営諫早干拓事業の潮受け堤防排水門の開門調査について「県は反対の立場」と伝えしたが、郡司副大臣は開門するか否かは白紙で、今後検討すると答えたという。

この問題については、開門の是非

を判断する政府与党の諫早湾干拓事業検討委員会が発足し、関係者の意見聴取が行われる予定という。

潮受け堤防が閉じられてからもなく13年になる。諫早湾、有明海の環境は悪化し、漁業被害は深刻さを増すばかりである。

現在、漁民らが潮受け堤防の撤去や排水門の常時開門などを求めた訴訟の控訴審が福岡高裁で審理中だが、高裁の判決が出ればそれで問題が解決するわけではない。問題はどうかすれば漁民が有明海の漁業によって生計を維持できるかどうかである。

昨夏の総選挙の際、民主党は政策集に「開門調査」を明記していた。政権交代した政府与党は責任を自覚して、潮受け堤防が漁業に及ぼす実態調査を早急に実施し、その結果に基づいた有効な対策を講ずるべきだ。

公害弁連 諫早干拓開門決議

3月27日、公害環境訴訟に取り組む弁護士約150名が参加した全国公害弁連連絡会議(公害弁連)の総会が沖繩市で開催され、諫早湾干拓排水門の開門を求める決議が採択された。同決議は、国に対し一日も早い開門を求める他、開門方法や開門に伴う対策等について原告団弁護士と裁判上の協議をすることを求めている。